



雪崩・地すべり 研究センターたより

季刊・第51号
2010. 1月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・ 年頭あいさつ ・ トピックス（雪崩・地すべり防止技術セミナー、学会、
雪崩災害防止セミナー、国際会議）

明けまして、おめでとうございます。

—大雪の時や雪解け時期には、雪崩や地すべり災害に注意しましょう！—



雪崩・地すべり研究センターでは、「地震により発生する地すべりのハザードマップ作成手法」や「対策施設の維持管理手法、雪崩の発生予測と到達範囲の推定手法」について、今年も自治体と連携しながら調査・研究を進めて参ります。今後とも、土砂災害による被害の軽減に役立つ技術の開発に取り組んで参りますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

当センターの周辺も12月14日から雪となり、21日には最大積雪深73cmを記録しました。18～21日にかけての雪は新潟県内の交通にも大きな影響を及ぼしました。その後、雪融けの影響によるものか20日以降、魚沼市、十日町市、出雲崎町で地すべりやがけ崩れが、また長岡市では県道に面した斜面で小規模な雪崩が発生しています。

大雪の時には雪崩の危険性が、雪融けの時期には雪崩や地すべりの危険性が高くなります。地面や雪面に亀裂が発生するなど地すべりや雪崩の前兆現象を発見した場合には、自治体に連絡して、早めの避難を心がけてください。

トピックス

■雪崩・地すべり防止技術セミナー

10月26日に、新潟県妙高市において「雪崩・地すべり防止技術セミナー」が開催されました。セミナーでは、入村明 妙高市長の挨拶の後、（財）砂防フロンティア整備推進機構の井上氏より宝暦の高田地震（1751年5月21日発生 M7.2）をはじめとして信越地方で発生した過去の大規模な地震と土砂災害の歴史について講演をいただきました。

当センターからは、「豪雪時の雪崩点検のポイントと応急対策法」、「地すべり防止施設の老朽化の実態と原因」について紹介しました。



■砂防技術者のための勉強会

10月5～6日に、北陸地方整備局湯沢砂防事務所「砂防技術者のための勉強会」が開催され、講師として石井所長と丸山総括主任研究員が参加しました。「新潟県の地すべり災害と技術開発の歴史」と「地すべり調査と対策」について、これまでの調査研究成果などを紹介しました。



■日本地下水学会 2009 年秋季講演会

日本地下水学会の秋季講演会が、10月15～17日に札幌市で開催されました。当センターからは丸山総括主任研究員が「地すべり地における地下水排除工閉塞に及ぼす地下水中の全鉄量の影響」と題して、地すべり防止施設の維持管理に関する研究成果を発表しました。



■全国地すべりがけ崩れ対策協議会研究発表会

第63回研究発表大会が、11月5～6日に愛知県常滑市で開催されました。当センターからは丸山総括主任研究員が「地すべり地における横ボーリングの閉塞実態に関する調査」と題して発表しました。これは、平成20年度に全国地すべりがけ崩れ対策協議会と当センターが共同で全国調査を実施した結果を報告したものです。



■雪氷研究大会

9月29日～10月2日に札幌市で雪氷研究大会が日本雪氷学会と日本雪工学会の共同で開催されました。当センターから伊藤研究員が「地震計による雪崩検知と地震動との識別手法の検討」、富樫研究員が「レーザー計測データを用いた雪崩発生域と非発生域の地形及び植生状況」と題して発表しました。

■寒地技術シンポジウム

11月24～26日に札幌市で第25回寒地技術シンポジウムが開催されました。当センターから伊藤研究員が「レーダー降水量データによる雪崩危険度評価と雪崩発生状況の比較」、富樫研究員が「平成18年豪雪を事例とした Voellmy model の検証」と題して発表しました。

■雪崩災害防止セミナー

12月1日に山形市で雪崩災害防止セミナーを開催しました。このセミナーは札幌市の寒地土木研究所雪氷チームと共同で企画・主催したもので、山形県の共催、国土交通省東北地方整備局の後援をいただきました。本セミナーは秋田市、青森市に続き3回目となり、国・県など

の職員のほか、警察・消防・陸上自衛隊・建設会社などから124名の参加がありました。

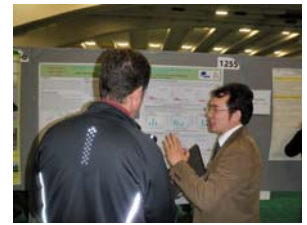
セミナーでは、雪氷チーム松澤上席研究員による「雪崩現象の基礎知識」の講演に続いて、山形県で雪崩研究を行っている（独）防災科学技術研究所の阿部修総括主任研究員が「山形県内における雪崩災害について」と題して、山形県の雪崩災害の歴史や雪崩対策の実態について解説をいただきました。



その他、土木研究所の雪崩研究の成果について当センター伊藤研究員が「豪雪時における雪崩危険度評価手法の検討」、雪氷チーム松下研究員が「最近の道路雪崩対策の課題と研究成果」を発表しました。

■AGU 2009 Fall Meeting

AGU（アメリカ地球物理学連合）2009年秋季発表会が、12月14～18日にアメリカのサンフランシスコ市で開催されました。当センターからは、ハスパートル研究員が「Distribution characteristics of earthquake-induced landslide with the earthquake source fault-the cases of recent strong earthquakes in eastern Japan」と題して、中越地震、中越沖地震や能登半島地震による地すべりの分布と震源断層との関係について発表しました。



■ニュートンのりんごの木

10月7日に、リンゴの収穫をしました。収穫したリンゴの直径は6～7cmであり、数は255個です。今年カラスよけのネットを張ったせいか、カラスの食害が少なかったようです。ただし、リンゴにシミのような傷が付いたため、見栄えはあまり良くありませんでした。



雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載しておりますので、ご覧ください。

発行：独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所
土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター
住所：〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8
TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: http://www.pwri.go.jp
掲載内容は現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。